



パーキンソン病は、脳の中にあるドパミンという物質が減ること、脳から出される運動の指令がうまく伝わらなくなる病気です。この病気は、50〜60歳で発症することが多く、比較的多くの患者さんがいます。パーキンソン病になると①手足がふるえる②動作がゆっくり③筋肉がこわばる④バランスが悪い、などの症状がさまざまに組み合わさって現れます。特徴的な症状だけでも診断は可能ですが、他の疾患と見分けるために放射線検査や血液検査を行います。パーキンソン病の治療は、薬物療法やリハビリが中心となります。医師の指示でドパミン製剤やその働きを助ける薬

パーキンソン病はこんな病気です

蒲郡市民病院 神経内科部長 ◆ 松本幸浩



を飲むことにより、症状をある程度コントロールできます。しかし、症状が軽症で日常生活に支障が無ければ、必ずしも薬を飲む必要はありません。これは病気の進行を止める薬ではないからです。残念ながら症状はゆっくり進行していきますが、パーキンソン病そのもので寿命が短くなることはありません。症状とうまく付き合えば、他の病気にも注意すれば天寿を全うできると考えても良いでしょう。また、厚生労働省特定疾患に指定されているので、症状の重い方は、介護保険などの公費による援助が受けられることがあります。かかりつけの医師や保健所に相談してみると良いでしょう。



問合先 長寿課 ☎66・1176

要介護認定を受けた人が介護サービスを利用するときは、原則として、そのサービス費用の1割を負担します。ただし、要介護度により1カ月に利用できるサービスの量が定められています。その上限額を超えてサービスを利用すると、超えた分の全額が利用者負担になります。**施設を利用したときの費用** 介護施設に入所すると、1カ月の費用は、1割の負担額と食事代で、おおよそ左のようになります。

介護老人福祉施設

44万円〜53万円

介護老人保健施設

48万円〜55万円

介護療養型医療施設

48万円〜65万円

金額は要介護度や施設の人員基準に応じて異なります。

また、他に日常生活費などが必要です。

低所得者の入所中の食事の負担額を減額します

施設に入所すると、食事代として1日780円かかります。しかし、市町村民税非課税世帯の方、生活保護を受けている方などの場合は、食事代が減額されます。対象となる方は、長寿課に申請してください。

高額な介護サービス費用を支払った場合

介護サービス利用者が支払った1割の負担額が、世帯合計で1カ月3万7千200円を超えた場合は、超えた分が払い戻されます。

市町村民税非課税世帯の方、生活保護を受けている方には、別に軽減された上限額が設定されます。

支給対象者には、長寿課からお知らせします。

介護保険サービス（利用者負担金）